



「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目次

- ◆Young 探鳥会が出来るまで (第1回)・・・1
- ◆NPO 法人日本野鳥の会鳥取県支部からの情報・・・3
- ◆探鳥会訪問記・・・5
 - ・特集・初心者向けバードウォッチング (広島県支部)
 - ・バードリスニング 2019 in 鳥取中部 (鳥取県支部)
- ◆探鳥会保険集計結果・・・9 (2019年5月分)
- ◆普及室からのお知らせ・・・11
 - ・秋期開催分「初心者向けバードウォッチング」実施概要をお送りください
 - ・個人情報保護にご注意を！
～個人情報保護チェックリストをご確認ください～
- ◆今月の購読者数・・・12
- ◆探鳥会スタッフ通信の無料配信について・13
- ◆編集後記・・・13

◆Young 探鳥会が出来るまで (第1回)

現在 10 を超える支部で開催されている Young 探鳥会。今月号から、その Young 探鳥会の創始者である神奈川支部幹事の小松さんに、Young 探鳥会の開催にまつわるお話を連載させていただきます。探鳥会リーダー・幹事のみなさまの中でも特に、支部で新しいことに取り組もうとされている方には、励みになる貴重なお話だと思います。どうぞお見逃しなく！（普及室）

■はじめに

読者の皆様、初めまして。私は約 20 年前、野鳥の会史上初の「Young 探鳥会」を発案した神奈川支部幹事の小松洋と申します。

Young 探鳥会は現在、全国各地で開催されており、発案者として非常に嬉しく思っています。Young 探鳥会・全国波及の功労者は、日本野鳥の会東京の副代表の石亀氏です。彼は神奈川支部の Young 探鳥会の第1回目からの参加者であり、後に神奈川支部の Young 探鳥会が完結した後、東京で Young 探鳥会を再開してくれ、大きく育ててくれました。彼の尽力には感謝の気持ちでいっぱいです。

Young 探鳥会は、若造だった私の意見に耳を傾け、即座に抜擢、任せて下さった、故・浜口哲一前神奈川支部長の英断と、協力して下さいました。彼の先達方があったらこそ実現出来たものであり、浜口先生と先輩方への感謝と敬意は、到底言い尽くすことが出来ません。

私のしたことなど、その恩恵に浴しただけで、Young 探鳥会がどのようにして世に出

たかや、試行錯誤を繰り返しながら悩み考え、突き進んだ軌跡をお話することが、探鳥会を担う全国の若手の皆さんや、これから新しいことを立上げようとしている方の参考となり、野鳥の会の更なる発展に繋がることを願って、僣越ながら筆を執らせていただいた次第です。

■私が Young 探鳥会をやりたいと思った理由

・久しぶりの定例探鳥会

私が日本野鳥の会に入会したのは、約 35 年前、高校生の時でした。生物部に入部した私は、ここで恩師の藤井明先生と出会います。藤井先生が故・浜口前神奈川支部長と懇意だったことから、全国的な情報を得る為に、野鳥の会に部員皆で入ろうという話になり、仲間が入るから便乗する形で私も入会したのです。その為、支部報すらろくに読まない会員でしたが（笑）部活は藤井先生が 1 人 1 人の個性を尊重し、伸び伸び活動させて下さったので、とても楽しく 3 年間で過ごしました。

◆NPO 法人日本野鳥の会鳥取県支部からの情報

当会の通販カタログやオンラインショップで、小鳥の羊毛フェルト（ヒーリングバード）制作キットをご覧になったことはあるでしょうか。この商品は、NPO 法人日本野鳥の会鳥取県支部（以下、鳥取県支部）が、福祉サービス作業所「ノームの糸車」と協力して開発したものです。

鳥取県支部では、このヒーリングバードを探鳥会と組み合わせるなど、支部 PR ツールとして活用してきました。開発のきっかけやこれを利用したイベントなどを紹介いたします。（普及室）

■ヒーリングバード開発のきっかけ

2016年4月、民間の調査会社が「鳥取県は女性のストレスが最も少ない県日本一」と公表したことをきっかけに、鳥取県がストレスオフ活動拡大事業を予算化しました。これを聞きつけた支部の女性会員が、「バードウォッチングやリスニングはストレスオフ効果抜群！何かできるかも」と思い立ったのが事の始まりでした。そこで、羊毛フェルトで作るかわいいマスコット小鳥（「ヒーリングバード」と命名）と野外散策（ミニ探鳥会）を組み合わせる企画を応募し、見事採択されました。ところが、そもそも言い出した会員は羊毛フェルトアートの経験は全くなし……。どうすればイベント開催までこぎ着けるのか？手探りのスタートでした。



▲ヒーリングバード

■開発の道のり

ヒーリングバード開発の条件を、①羊毛フェルト初挑戦でも1時間半程度の作業で完成すること、②野鳥の特徴を最大限捉えること（だって野鳥の会だもの）、③カワイイと満足できること、に設定しました。まず、色や模様の特徴のある小鳥を選び（ルリビタキ、キビタキ、メジロ、エナガなど）、特徴を球体に落とし込むデザイン図を作りました。次に鳥の体としてピンポン玉大の羊毛玉を作り、頭や腹などに羊毛

を刺しつけました。嘴・羽・尾はフェルトを切って貼り付け、目は手芸用市販品を利用しました。この方法で試作品を作っては修正し・・・最後は、ヤング会員中随一の識別力を持つ K 君（当時中1）に試作品の面通しを行い、試作完成としました。

イベント用として、必要な材料・道具に作り方説明書も同封した「キット」を10種準備しました。これらが後日の商品化につながるようになりました。

■ストレスオフ活動拡大事業

『秋の森で野鳥を感じてヒーリングバードを手づくりしよう』

2016年11-12月、鳥取県の東・中・西部3か所で、ストレスオフ活動拡大事業『秋の森で野鳥を感じてヒーリングバードを手づくりしよう』を開催しました（開催要領はイベントチラシ）

<https://www.wbsj.org/info/shibu/tancho/staff201907tottori.pdf> 参照)。かつてない各種広報活動（報道各社への資料提供、NHK 鳥取放送局・ローカルFM局のイベント紹介コーナーへの出演）も行い、イベント参加者は東部26人・中部16人・西部27人、計69人でした。野外散策のガイドは探鳥会のリーダーが担当し、ヒーリングバード作りのスタッフとして、女性会員3~4人に応援をお願いしました。当日の様子は支部HPの2016年発信分をご覧ください。

（ <http://www.toritorihp.or.jp/sub12-5.html> ）

参加者は30代、40代の女性を中心。当日の様子やアンケート結果から、探鳥会だけでは集まらない層向けとして、野鳥に親しむツールとして、また支部活動をPRするツールとしても、ヒーリングバード作りは十分に力を発揮しました。さらに会員がスタッフとして支部活動に触れ、一般参加者と支部をつなぐ役割を認識できるよい機会になりました。



▲2016年東部地区会場風景

■商品化へ

イベント開催をきっかけに、ヒーリングボードキットを商品化してはどうかという意見が出ました。幸いなことに、県内の福祉サービス作業所「ノームの糸車」が、米子水鳥公園で羊毛フェルトの水鳥のマスコット手作り教室を開催し、同園の売店でも関連商品が販売されていました。ヒーリングボードの商品化を提案したところ快諾いただき、材料の確保や作業行程などを打ち合わせ、通販カタログで取り扱ってもらうことになった財団事務局とパッケージなど商品化の詰めを進め、2017年秋冬号カタログでヒーリングボードキット：エナガ・モズ・ルリピタキを販売することができました。2018年のサマーフェアカタログではオオルリ・キビタキ・メジロを、そして2019年サマーフェアカタログでは、要望の多かったキクイタダキに加え、シジュウカラ・ゴジュウカラをセレクトしました。これで9種となりましたが、さて、この後は・・・実はまだ何種類か候補があります。

■他団体がイベントでキットを活用

商品化されたことにより、氷ノ山自然ふれあい館「響の森」の探鳥会や大山寺「大山ゲストハウス寿庵」の雨天時のイベントでこのキットが利用されるようになりました。また、米子水鳥公園では、当支部・「ノームの糸車」3者の共同イベントとして、2018年から毎年3月に「羊毛フェルトでヒーリングボードを作る

う！」がスタートしました。

なお、キットは米子水鳥公園の売店でも販売されており、イベント用に必要な個数をノームの糸車に直接注文することもできます。



▲2018年水鳥公園でのイベントの様子

(NPO 法人日本野鳥の会鳥取県支部／
津森登志子)

■ヒーリングボードの取り組みについての一考察

支部の定期総会の時に、たまたま集まった女性会員同士のおしゃべりからスタートしました。「難しそう、無理じゃない」ではなく、「面白そう、やってみよう」というノリを大切にしました（女性会員に尻をたたかれたという意見もある）。

探鳥会、調査活動、保護活動などをコツコツ進めていても、会員の高齢化、減少の波が押し寄せてきます。そんな時、会員の声を聞いて熱を感じ取り、柔軟な発想と真摯な気持ちで応えることが必要だと考えます。新たな取り組みの積み重ね、新たな経験の共有が、新たな仲間づくりに結びつくと思います。

また、支部のアイデアを商品化する時、地元のNPO法人との新たな協働が始まっただけでなく、財団との連携がいっそう強まったと実感しました。今後ともよろしくお願いします。

(NPO 法人日本野鳥の会鳥取県支部事務局／
津森宏)

■特集・初心者向けバードウォッチング■

広島城で身近な鳥と友達になろう（広島県支部）

【日程】2019年6月2日（日）8時30分～10時30分

【場所】広島城（広島県広島市中区）

【天候】曇り

【参加者】25名（うち一般参加者18名 ※18名中3名は会員のお子さん）

【リーダー】5名、財団職員1名

【広報】

<インターネット>財団HP/facebook/twitter

<メール>一斉メール送信（3月下旬、全国約60,000名に送信）

<チラシ>探鳥会のご案内（4月初旬から全国約40,000名に送付）

6月2日の広島県支部の初心者向けバードウォッチングに参加してきました。

広島県支部の会員数は、20年前に比べて半減、10年前と比べると2割減少していますが、2015年を境に会員減は下げ止まり、それ以降は横ばいか微増となっています。今回、広島県支部が「初心者向けバードウォッチング」に参加された背景には、一つはこの会員の下げ止まりがあります。そしてしばらく活動を休んでいた役員の方が復帰され、今回の探鳥会の担当に手を上げてくださったことが大きな弾みになっているとのことでした。会場は、隔月（奇数月）定例探鳥会が行われている広島城。これにより下見を簡略化したり、探鳥会の常連参加者に協力を得られることも期待しているとのことでした。

■支部の事務所を訪問しました

探鳥会の前日に支部の事務所にお邪魔し、毎月行われている「連絡会」（役員会のこと）に参加させていただきました。広島県支部では、役員会を「連絡会」と呼び、敷居を下げて役員以外の会員も参加しやすいように工夫しているとのことでした。支部の事務所は広島駅から車で5～10分程のビルの1Fにあり、支部が寄付金で創設した「野鳥図書館」を事務所に兼用しています。「野鳥図書館」とは、匿名の寄付者の意向により1981年に、野鳥に関する書籍を集めて地域の方に開放した民間図書館です。日本語図書3,350冊、外国語図書150冊、雑誌70種、CD30点、ビデオテープ100点が収蔵されています。

■探鳥会当日の様子

集合場所である広島城址へ駅から歩いて向かいました。お濠とこんもりとした森の奥に立派な天守閣が建っています。このあたりは世界遺産となった原爆ドームが近くにあり、広島有数の観光スポットとして大勢の外国人観光客が歩いていました。写真を見ると原爆が投下された当時、原爆ドームを除いてこのあたりはほぼ何もない状態になったようです。当然広島城もひとたまりもありませんでした。今見えている風景は、戦後ゼロからつくられたものだということになり、ほんの少しだけ時間軸をさかのぼってみるだけで今と全く違う景色が見えてきて少し複雑な気分になりました。

集合場所に到着すると、すでにリーダーの皆さんが受付の準備をされていました。そして、開始時間が近づくとともに少しずつ参加者の皆さんが集まってきます。

受付では、カード式の名簿にご記入いただき、希望により双眼鏡を貸し出します。貸し出し用の双眼鏡は、支部所有の双眼鏡で普段の探鳥会でもビギナーの方に貸し出しているそうです。今回の非会員の参加者は18名。財団から送ったDMは507件でしたから、3.6%ということになります。通常は送ったDMの数に対して実際に参加されるのは、1%がいいところなのでDMの効果としては悪くない数字です。

やがて開始時間となり、担当リーダーの方によるあいさつがあり、一日の流れ、今日の見どころの説明の後、班分けはせずに一つのグループでスタートしました。6月にもなると、落葉樹の葉っぱが茂り、巢立ち雛を連れた小鳥たちは、葉の陰に隠れてしまい、初心者向け探鳥会としてはやや苦しいスタートとなりました。

それでも、スズメやツバメ、トビ、ハシブトガラス、キジバトを見ながら少しずつ双眼鏡での観察に慣れていき、約2時間の探鳥会の中でシジュウカラや、エナガ、メジロ、カワラヒワなどの小鳥を観察することができるようになっていきました。そしてクライマックスではお堀端の水辺にたずみ、水面をじっと見つめるササゴイを全員でじっくりと観察することができました。

■親子連れの参加者

初心者には少し厳しい観察条件でしたが、参加者のバードウォッチングへの関心は高く、真剣に鳥を探して観察されていました。特に今回は3組の親子連れが参加されており、リーダーだけでなく常連の参加者が、子どもたちに話し

かけながら個別に対応されていたので、ほどよい雰囲気を作り出してくれていたように思います。

私もそのうちの1組の親子と花や虫を観察しながら、なぜ参加しようと思ったのかお話を聞いてみました。すると、お母さんが若いころアメリカの野生生物調査機関に務めていて、当時現地のスタッフにバードウォッチングの手ほどきを受けたことがあったそうです。子どもが大きくなって体力的にも一緒に歩くことができるようになったので、子どもを連れて参加してみたとのことでした。子どもたちと一緒にこれからも参加したい、とおっしゃっていました。

(普及室/箱田敦只)

(カード式名簿記入者のアンケート結果)

【性別】	【年齢構成】	【認知経緯】	【一般・会員】	【BW経験】	【居住区】
男性5名 女性10名	9歳以下1名 10代1名 20代0名 30代2名 40代2名 50代5名 60代2名 70歳以上2名	家族・友人の紹介4名 支部HP3名 メール3名 財団HP3名 その他1名	一般15名 会員0名	今回初めて11名 2~4回3名 5~9回0名 10回以上0名 未記入1名	広島市11名 東広島市1名 大竹市1名 熊野町1名 山口県1名

バードリスニング2019 in 鳥取中部 (鳥取県支部)

NPO 法人日本野鳥の会鳥取県支部 (以下、鳥取県支部) では、2002年から視覚障がいのある方を対象とした探鳥会「バードリスニング」を開催しています。今回13回目を鳥取県中部で初開催すると聞き、参加してきました。

【日程】2019年6月20日(木) 10時30分~13時30分

【場所】一向平^{いっこうがなる}キャンプ場 (鳥取県東伯郡琴浦町)

【天気】晴れ

【主催】(公社) 鳥取県視覚障がい者福祉協会 中部支部

【共催】NPO 法人日本野鳥の会鳥取県支部

【協力】鳥取県視覚障がい者ボランティア「点訳・朗読うつぶき赤十字奉仕団」、
一向平森林保全協会、鳥取県大山自然歴史館、米子水鳥公園

【参加者】27名

(視覚障がいの方13名※、サポーター13名、バス運転手1名) ※1名は車椅子

【リーダー・スタッフ】6名、財団事務局1名

■鳥取県中部での開催

鳥取県支部では、探鳥会などの活動を、東部、中部、西部の3地区に分かれて行っています。バードリスニングは2002年に西部地区で開催して以来、2005年から2014年に主に東

部地区で9回開催し、昨年久しぶりに西部で開催されました。

(参照: 探鳥会スタッフ通信2018年7月号 <http://www.wbsj.org/info/shibu/tancho/staff201807.pdf>) 好評であった昨年を受け

て、鳥取県支部では継続開催を考慮しており、今年が中部、来年は東部での開催を予定しています。今回は平日開催のため参加できるリーダーが少なく、中部のリーダー1名に加えて、西部から3名、東部から2名が参加しました。

■下見と集合の様子

スタッフは、9時に集合し、事前に設定していた3コースを実際に歩いて確認しました。6名のリーダーの内5名がバードリスニングの経験者です。慣れた様子で、鳥の他、植物や川の音にも気を配りながら解説対象をピックアップしていました。

10時30分を過ぎて参加者がバスで到着しました。(公社)鳥取県視覚障がい者福祉協会(以下、視障協)中部地区の高田支部長によると、視障協では毎年1回歩行訓練を兼ねた交流や研修の場があるとのこと。今年は鳥取県支部から声をかけてもらったことで、その機会をバードリスニングにあてたそうです。鳥取県支部の谷口副支部長(中部のリーダー)は、予め視障協の総会に出向き、鳥の話と共にこのイベントをPRされたそうで、参加者が期待をもって参加されているのが伝わってきました。



▲開会の挨拶。NHK、日本海新聞、日本海テレビ、地元のケーブルテレビが取材に来ていました。

■探鳥会の様子

参加者の希望に応じて、①あまり歩かないコース、②往復500m程のコース、③往復1km程のコースに分かれました。それぞれを2名のリーダーが担当し、私は主に②のコースを見学しました。

②のコースは、自然遊歩道を往復する道のりで、視覚障がいの方5名とサポーター5名の計10名の参加者でした。リーダーは、「ここは来たことがありますか?」「家の周りではどんな鳥の声を聴きますか?」

などと話しかけ、参加者と会話をしながら進めており、すぐにアットホームな雰囲気となりました。遊歩道に入る前の林で、オオルリの声が聴こえます。肉眼でも見える距離でまるで歓迎するかのように鳴き続け

「綺麗な声ですね。」

としばらく皆さんで聞きこんでいました。リーダーからは瑠璃色の鳥であることや、鳥が鳴く理由などの説明がありました。

遊歩道では、下見で確認していたモミジイチゴを味わったり、冷たい水を触ったり、ドクダミやフキを嗅いだりと、聴覚だけでなく、味覚、触覚、嗅覚を使って、自然を満喫しました。

12時前に室内に入り、アカショウビンの剥製、メジロとシジュウカラの模型、点字の「さわる図鑑」、鳴き声タッチペンなどを使い、聴いた鳥の復習をしました。

その後、キャンプ場内の施設で、手打ちそばをいただき、参加者に喜んでもらおうとリーダーが用意したスイカと自家製の冷凍焼き芋も振舞われました。視障協の高田支部長からは、「楽しい体験ができ、皆さんに心から感謝して



▲オオルリの声を聴く



▲熱心に図鑑に触れる参加者の皆さん

います。毎年開催してほしいくらいです。」との言葉と共に、鳥取県支部に対してお菓子が渡され、温かいムードの中で締めくくられました。

■まとめ

今回、視障協、歩行をサポートするボランティア、自然解説をする日本野鳥の会が、それぞれの強みを活かして協力することで、普段自然を楽しむ機会の少ない方たちに自然体験の場を提供できたことは、とても大きな成果だったと思います。

私は初めて視覚障がいのある方向けの探鳥会に参加しましたが、参加者が野外体験から食事の時間まで、始終とても嬉しそうな笑顔だったのが印象的でした。当初、普段とは勝手が違

うため、リーダーは大変なことも多いのではないかと想像していましたが、「観察道具を持ち運ぶ必要はなく、無理に鳥を探さなくてもよし、自然と一緒に楽しむ気持ちで大丈夫」と、特別気負うことなく取り組んでいるようでした。

終了後に反省としてリーダーから、「スタッフ紹介の時間を抜かしてしまった」「アレやコレなどの指示語を使ってしまった」「お昼の時間を活かして感想を言い合う時間を作りたかった」などの意見があがり、経験がある分いろいろな点に気付かれている様子でした。今後は、3地区交代で継続開催していく予定とのことで、ますますスキルアップされていくことと思います。

(普及室／堀本理華)

◆探鳥会保険集計結果（2019年5月分）

5月は73支部からご報告をいただき、計345回の探鳥会が開催され、のべ8,769人が参加されました。

表 1. 5月の探鳥会保険集計結果（2019年6月15日現在）

支部	開催回数 (回)	参加者数		スタッフ数 (人)	合計人数 (人)
		会員(人)	非会員(人)		
オホーツク支部	4	61	39	4	104
根室支部	1	3	6	3	12
釧路支部	-	-	-	-	-
十勝支部	-	-	-	-	-
旭川支部	6	97	11	9	117
滝川支部	2	29	12	4	45
道北支部	1	11	0	3	14
江別支部	-	-	-	-	-
札幌支部	3	126	75	11	212
小樽支部	3	11	8	3	22
苫小牧支部	1	0	14	7	21
室蘭支部	4	35	17	9	61
道南桧山	3	29	50	10	89
青森県支部	-	-	-	-	-
弘前支部	9	106	25	9	140
秋田県支部	4	41	10	6	57
山形県支部	4	37	13	7	57
宮古支部	-	-	-	-	-
もりおか	3	73	97	15	185
北上支部	3	26	28	6	60
宮城県支部	5	96	51	9	156
ふくしま	2	36	77	12	125
郡山支部	5	60	40	13	113
白河支部	2	4	0	12	16
会津支部	2	12	2	2	16
奥会津連合	-	-	-	-	-
いわき支部	3	52	6	3	61
福島県相双支部	-	-	-	-	-
南相馬	-	-	-	-	-
茨城県	10	95	52	14	161
栃木県支部	15	227	124	59	410
群馬	10	115	99	33	247
吾妻	2	40	2	5	47
埼玉	9	232	53	47	332
千葉県	7	90	34	33	157
東京	13	465	18	60	543
奥多摩支部	11	169	38	39	246
神奈川支部	11	181	56	36	273
新潟県	2	9	28	0	37
佐渡支部	-	-	-	-	-

富山	3	76	24	6	106
石川	5	45	48	17	110
福井県	6	30	29	14	73
長野支部	4	70	17	8	95
軽井沢支部	2	22	20	2	44
諏訪支部	1	3	11	2	16
木曾支部	1	5	3	1	9
伊那谷支部	3	14	35	7	56
甲府支部	3	60	13	6	79
富士山麓支部	2	16	4	4	24
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	2	16	10	4	30
南富士支部	2	70	9	3	82
南伊豆	1	3	0	2	5
静岡支部	1	7	6	3	16
遠江	2	55	14	9	78
愛知県支部	15	221	132	40	393
岐阜	-	-	-	-	-
三重	7	47	37	12	96
奈良支部	4	103	98	13	214
和歌山県支部	1	1	7	4	12
滋賀	6	41	52	13	106
京都支部	14	252	105	38	395
大阪支部	22	437	158	129	724
ひょうご	6	96	150	25	271
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	30	38	3	71
島根県支部	2	10	5	2	17
岡山県支部	5	106	45	17	168
広島県支部	4	55	23	6	84
山口県支部	3	37	18	5	60
香川県支部	2	81	32	3	116
徳島県支部	5	82	7	5	94
高知支部	2	15	18	2	35
愛媛	4	59	24	8	91
北九州支部	4	46	17	8	71
福岡支部	8	106	13	17	136
筑豊支部	7	66	15	7	88
筑後支部	3	11	36	14	61
佐賀県支部	3	63	39	5	107
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	5	77	40	10	127
大分県支部	2	21	20	4	45
宮崎県支部	5	77	46	5	128
鹿児島	4	52	32	13	97
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	1	0	2	1	3
全国	345	5,252	2,537	980	8,769

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

(普及室)

◆普及室からのお知らせ

■秋期開催分「初心者向けバードウォッチング」実施概要をお送りください■

2019年度「初心者向けバードウォッチング」の秋期（10月～12月）開催分の実施概要を募集しています。

6月21日付で支部事務局あてにご送付しま

した資料をご覧ください、秋期に「初心者向けバードウォッチング」を開催される支部のみなさまは、8月9日（金）までに実施概要をお送りください。

■個人情報保護にご注意を！

～個人情報保護チェックリストをご確認ください～■

6月27日にある支部で個人情報漏えい事故が発生しました。支部のホームページ上に掲載されたPDFファイルに、探鳥会申し込み者69名の名簿が、約6ヵ月間にわたり閲覧可能な形で掲載されていたことが発覚しました。現在、この件については、財団で契約している個人情報保護コンサルタントにアドバイスを受けながら対応中です。

各支部におかれましても、日々の個人情報の取り扱い方法についてもう一度チェックをお願いいたします。財団が作成した※「支部個人情報保護チェックリスト」をご確認くださいませようをお願いいたします。

※「支部個人情報保護チェックリスト」をお持ちでない方は、以下の連絡先にお問い合わせください。なお、「支部個人情報チェックリスト」は、支部の内部でのご活用にとどめ、外部への転送はご遠慮ください。

【お問い合わせ先】

（公財）日本野鳥の会

普及室 普及教育グループ

メール：tancho-staff@wbsj.org

TEL：03-5436-2622

FAX：03-5436-2635

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信 7月号の電子メール版の購読者数は、先月から3名増えて854名です。各支部の購読者数は、「財団からの配信者数」と「支部からの転送による配信者数」の合計です。

表2. 探鳥会スタッフ通信 7月号電子メール版の購読者数 (2019年7月9日現在)

支部	購読者数	支部	購読者数
オホーツク支部	6	軽井沢支部	1
根室支部	1	諏訪	7
釧路支部	3	木曾支部	1
十勝支部	1	伊那谷支部	1
旭川支部	3	甲府支部	4
滝川支部	1	富士山麓支部	0
道北支部	1	東富士	0
江別支部	0	沼津支部	3
札幌支部	5	南富士支部	3
小樽支部	3	南伊豆	2
苫小牧支部	2	静岡支部	2
室蘭支部	5	遠江	11
道南桧山	1	愛知県支部	45
青森県支部	1	岐阜	6
弘前支部	5	三重	19
秋田県支部	4	奈良支部	3
山形県支部	4	和歌山県支部	5
宮古支部	1	滋賀	20
もりおか	4	京都支部	31
北上支部	2	大阪支部	26
宮城県支部	39	ひょうご	14
ふくしま	6	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	10
郡山支部	1	島根県支部	13
白河支部	2	岡山県支部	28
会津支部	2	広島県支部	9
奥会津連合	0	山口県支部	16
いわき支部	1	香川県支部	6
福島県相双支部	0	徳島県支部	6
南相馬	0	高知支部	1
茨城県	22	愛媛	16
栃木県支部	59	北九州	11
群馬	24	福岡支部	12
吾妻	1	筑豊支部	21
埼玉	38	筑後支部	6
千葉県	24	佐賀県支部	5
東京	69	長崎県支部	1
奥多摩支部	48	熊本県支部	13
神奈川支部	28	大分県支部	4
新潟県	2	宮崎県支部	4
佐渡支部	1	鹿児島	3
富山	2	やんばる支部	0
石川	29	石垣島支部	1
福井県	11	西表支部	1
長野支部	1	合計	854

(普及室)

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのア

ドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.orgへお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.orgまでお知らせください。

★編集後記

こちらは7月のわりには涼しい毎日が続いています。最後にちゃんと晴れたのはいつだっけ…？と思ってしまうくらいです。みなさまはいかがお過ごしですか？

涼しくても、ツバメのねぐらでは段々とツバメが集まってきているはず。事務所では今年も、「ツバメのねぐらマップ」や小冊子を申し込んだ方々から「今年も我が家で無事、ヒナが巣立ちました！」とか、「ツバメが集団でねぐらを作るなんて、全然知りませんでした。観察会にも参加してみたいです」といったお声が寄せられています。

私も、今年は「ツバメのねぐらマップ」を持って、ちょっと遠方のねぐらまで出かけてみようと思います。

また、10月～12月開催の「初心者向けバードウォッチング」の実施概要は、8月9日（金）が締め切りです。開催についてのご検討を、どうぞよろしくお願いいたします。

（普及室／井上奈津美）

日本野鳥の会

探鳥会スタッフ通信 第76号

◆発行

(公財)日本野鳥の会 2019年7月12日

◆担当

普及室 普及教育グループ

〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL : 03-5436-2622

FAX : 03-5436-2635

E-mail : tancho-staff@wbsj.org
